

腸内フローラ（細菌叢）の研究が進むにつれ、腸内細菌が精神状態にも大きな影響を及ぼしていることがわかってきました。2015年2月17日付けのサイエンティフィックアメリカン電子版では、「無菌のネズミの腸に他のマウスの腸から取った微生物を植え付けると、ド

ナーの性格まで受け継ぎ、臆病なマウスが冒険的になり、大胆だったマウスが内気になった」、「人の自閉症に似た特徴を示す、腸内細菌叢に異常の見られたネズミに対し、抗炎症作用をもつある種の菌を投与すると、腸壁透過性が改善して細菌叢が正常になり、自閉症に似た行動と



福本 学

■ 内科

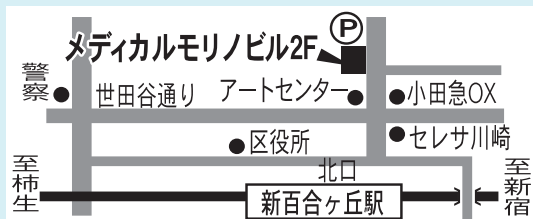
新百合山手福本内科

☎ 044-955-8877

麻生区万福寺 6-7-2

メディカルモリノビル 2F

<http://www.fukumotonaika.jp/>



コミュニケーション低下の緩和が見られた」などの発表が注目されています。ひどい腸炎の治療に、病気がない人の便からとった菌を移植する治療の研究が進んでいます。今後は人の精神状態の問題に対する治療へも発展することが考えられています。